

第1章 計画の基本事項

1. 計画の策定について

(1) 計画策定の趣旨

「生涯学習」という言葉は、一般には、人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。

教育基本法第3条においては、生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とされており、生涯学習社会の実現に努めることが規定されています。

我が国では本格的な少子高齢化、人口減少社会の到来をはじめ、グローバル化、情報化の急激な進展等、社会情勢が著しく変化しています。

また、前計画の期間中には新型コロナウイルス感染症の拡大により、家族の在り方の変化や近隣関係の弱まり、生活様式の多様化などによる地域社会における人と人とのつながりの希薄化が加速しました。

生涯学習は、個人の学びを促すだけでなく、地域社会における「つながり」を強化する側面もあります。学びを通じて、人々が交流し、互いに学び合うことは、地域の一体的な「まちづくり」につながります。

これまで本市では、2018（平成30）年に「清須市生涯学習推進計画」（以下、「前計画」という。）を策定し、翌2019（令和元）年に策定された「清須市第2次総合計画（後期基本計画）」を踏まえ、2020（令和2）年に中間見直しを行い、生涯学習社会の実現に向けて各種施策を推進してきました。

こうした中、前計画の期間が終了することや、「清須市第3次総合計画（前期基本計画）」が2024（令和6）年12月に策定されたことを受け、本市における生涯学習社会の実現に向けた取組を継続し、施策を総合的かつ計画的に推進するために「清須市生涯学習推進計画（第2期）」を策定します。

(2) 計画の位置づけ

計画の策定にあたっては、国や県の動向を踏まえるとともに、本市の最上位計画である「清須市第3次総合計画」や教育、福祉、男女共同参画等の各種施策との整合性を図ります。

	計画名
国	「第4期教育振興基本計画」
愛知県	「第3期愛知県生涯学習推進計画」
清須市	「清須市第3次総合計画」 「第3次清須市教育大綱」 「清須市教育委員会基本方針」 「第2次清須市男女共同参画プラン」 など

① 計画の期間

「清須市生涯学習推進計画（第2期）」の期間は2025（令和7）年度から2034（令和16）年度の10年間とします。

中間年度である2029（令和11）年度に中間見直しを行います。

R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034
				中間見直し					

2. 社会情勢、国・県の動向

(1) 社会情勢の変化

① 人生 100 年時代の到来

出生率の低下や平均寿命の延伸などにより、少子高齢化が急速に進展しています。今後日本では、さらなる健康長寿社会を迎えることが想定され、人生 100 年時代と言われる中で、長い人生をより充実させるためには、様々なライフステージごとに生涯にわたる多様な学習の機会が重要です。

また、社会の構造的な変容に対応するため、社会人の学び直しをはじめとする学習の必要性が増大しています。人生 100 年時代においては、「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要」があり、特に、社会的な課題の解決に向けて生活基盤を確かなものとする上で「学校教育以外の学び」の重要性が再認識されています。

② VUCAの時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)

VUCA (Volatility・Uncertainty Complexity Ambiguity) とは、物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状態を指します。社会や経済、技術の変化が急激に進む中で、将来を予測することが難しくなっています。

このような予測不可能な環境において、持続可能な社会を築くためには、柔軟性や適応力が求められています。個人や組織が持続的に成長するためには、継続して学ぶことが重要です。

③ 情報化の急速な進展

新型コロナウイルス感染症の流行等により、人々の学習環境やコミュニケーション環境に大きく変化が生じました。デジタル社会の進展への対応の必要性が増大し、デジタルデバイド(情報格差)の解消や、国民全体のデジタルリテラシー向上が喫緊の課題となっています。

これらの情報化の急激な進展により、従来の教室や書籍での学びに加え、オンラインでの学習や、モバイルアプリ等を活用した学習が進んでいます。

④ 社会やライフスタイルの変化等に伴うつながりの希薄化

家族の在り方の変化や近隣関係の弱まり、生活様式の多様化などによる地域社会における人と人とのつながりの希薄化は、家庭や地域での教育力の低下につながっています。個人の学びを地域に還元し、交流を通じて相互に学び合う機会を創出することや、地域、学校、市が協力し、地域の歴史・文化を次世代に伝えていくための取組の強化が必要です。また、貧困家庭の子ども、外国人、障がいのある人やその家族、社会的に孤立しがちな若者や高齢者など、困難な立場に置かれている人々に関する課題が顕在化・多様化していることにより、社会的包摂と、その実現を支える地域コミュニティが一層重要とされています。

⑤ 持続可能な開発目標(SDGs)の実現

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) とは、2015 (平成 27) 年 9 月の国連サミットにおいて、全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲載された世界共通の目標で、健康や教育、経済成長、気候変動に関するものなど、多岐にわたる 17 の目標と 169 のターゲットが設定されており、2030 (令和 12) 年までの達成を目指すものです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(2) 国の動向

① 「第4期教育振興基本計画」の閣議決定(2023(令和5)年6月16日)

教育振興基本計画は、教育基本法に示された理念の実現と、我が国の教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るために策定する計画です。

第4期教育振興基本計画においては、2040年以降の社会を見据えた教育政策のコンセプトとして「持続可能な社会の作り手の育成」及び「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を掲げ、5つの基本方針と16の教育政策の目標が示されています。

【5つの基本方針】

- ・ グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ・ 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ・ 地域や家庭とともに学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ・ 教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
- ・ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

② 「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」 (2022(令和4)年8月)

生涯学習が果たしうる役割として、「職業や生活に必要な知識を身につけ自己実現を図るためのものとし、他者との学び合い・教え合いにより豊かな学びにつながるもの」、社会教育の役割として「学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み、持続的な地域コミュニティを支える基盤となるもの」としています。

人生100年時代・VUCAの時代においては、こうした従来の役割に加え、「ウェルビーイングの実現」、「社会的包摂の実現」、「デジタル社会への対応」、「地域コミュニティの基盤」が重要であると示されています。

(3) 県の動向

① 「第3期愛知県生涯学習推進計画」の策定(2023(令和5)年3月)

第2期愛知県生涯学習推進計画の基本理念「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」を継承しつつ、未曾有の少子高齢・人口減少社会、人生100年時代の到来、貧困と格差の問題、家庭教育の困難化、情報環境の変化、社会のつながりの希薄化など、生涯学習を取り巻く社会経済情勢の変化に対応することを目的とし策定されました。

3つの柱「自己を高め、豊かに生きる生涯学習」、「人をつなぎ、地域をつくる生涯学習」、「未来を築く生涯学習」を基に生涯学習施策を展開し、「3つの柱を支える生涯学習推進体制づくり」に取り組むこととされています。



尾張西枇杷島まつり